

平成25年度 青谷高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

総合学科高校のあるべき姿を模索しながら、生徒の実態やニーズに合わせた特色ある教育実践を行っている。進路指導においては、生徒に明確な進路目標を持たせるために系列選択制を実施し、「社会人として通用する人材」を育てていこうとしている。生徒は、自分の興味・関心のある教科を中心としながらも、進路希望に必要な教科を学習することができるようになってきている。また、生徒の多様な進路希望にきめ細かく対応しており、生徒の満足できる進路結果となっている。

人材育成には生徒指導の充実が基本と考え、自己評価表の「評価項目」などを具体的な行動目標に改めて、指導の目標や方法をわかりやすく容易にしたことは評価できる。今後も引き続き、地域の学校として信頼され支持されるよう、地域との連携を十分にとりながら指導の充実を図っていくことを期待したい。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 「社会人として通用する人材」の育成を学校ビジョンとして掲げ、生徒の社会性・キャリア意識を育てる工夫が系統的になされている。また、卒業生を進路指導の講師に採用するなど、身近で実際に即した指導も行われている。
- ② きめ細かく粘り強い指導と、総合学科の特色である多面的な観点からのアプローチを活かして、生徒の多様な進路希望に応え、成果を上げている。
- ③ 言語力アップ事業・国際交流事業・外国語教育などの事業、生徒の実態やニーズに添った新しい分野の指導など、他校ではあまり行われていない特色ある取組を、教育委員会と連携しながら積極的に取り組んでいる。
- ④ 保健に関する指導や相談体制を整えるとともに、体力づくりについて調査を行い、その結果と対応について生徒・保護者・教職員が共通理解を図っている。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 授業が生徒の興味や関心を引くものとなるよう、指導過程の工夫、資料や機器の活用、生徒の活動を織り込むこと、少人数を活かした教室環境と指導形態の工夫・ALT（外国語指導助手）の活用など、生徒が意欲をもって学ぶことのできる授業づくりについて研究する必要がある。
- ② 実社会に通用する人材を育てるため、現在は限定的に行われているインターンシップの取組を、さらに拡充していく必要がある。
- ③ 規範意識の低い生徒もおり、生徒指導の徹底が望まれるが、教職員の意識改革を行うとともに共通理解を図って、自己評価表に掲げたとおりの指導に全力を尽くしていく必要がある。
- ④ 自己評価表の評価項目がやや観念的であり、また、目標と方策を混同した部分も見られる。具体的な指導と結びつけながら再検討するとともに、数値目標を設定するなどの改善をしていく必要がある。
- ⑤ PTA・学校関係者や地域から信頼され支援していただくために、学校の責任として情報を伝達していく手段を持つ必要がある。その一つであるホームページは、更新のタイミングを工夫する必要がある。